



埼玉から

キュウリのハウスでくん炭やき、アブラムシ対策

酒井 潮

深谷市でキュウリを周年栽培する高野利雄さん。4年前に定年を迎え専業農家となって、最初の壁がアブラムシでした。真っ黒なアブラムシがキュウリの実や葉にびっしりついて日々頭を悩ませます。

10aの連棟ハウスの中央に設置。キュウリの生育真最中に、週に1度のペースでやっています。

煙のニオイは循環扇でハウス全体へ、できたくん炭は株元へ、採取したモミ酢も500倍に薄

めて動噴で散布。この三つの方法でアブラムシを追い詰めています。

そんなころ『現代農業』のバックナンバーを読み漁り、「アブラムシ対策にモミガラくん炭」の記事を発見。くん炭製造器を購入しました。

購入先の業者から「ご近所さんにニオイが迷惑になるので気を付けて」と念を押されたこともあり、煙が外に出ないよう



さらに、くん炭やきでハウスの温度が上げれば、燃料代の節約にもなりそうです。「くん炭の魅力は尽きないよ」と高野さんは満面の笑みでした。



鹿児島
から

山の土だとワラビが育つ

始良市あいらの山内政枝さんは近所で有名な山菜採り名人。山菜について話すときはとてもイキイキしています。しかし年を取り、山に登るのが大変になってきました。「畑でワラビが採ればラクなのに」と考えた山内さん、春先ワラビが出てきた頃に根を掘って、畑に植えてみたのですが、うまく育ちませんでした。

あるとき弟が「鉢植えを育てたいから山の土がほしい」と言って肥料袋いっぱいを持ち帰ると、後日そこからワラビが生えてきたんだそうです。「なるほど山の土ならワラビも上手に育つはずだ」と、山内さんもさっそくやってみることにしました。

30 cm × 1・5 m ほどの範囲をならし、袋一つの山の土を薄く広げます。芽の出たワラビの根を10本ほど置いて、また1袋分の山の土を薄

くかけてやりました。すると面白いようにワラビが生えてくるようになり、3年で6畳分くらいの面積まで増えたそうです。やっぱり山菜採り名人の名は伊達じゃない！

青木大洋





根から

トウガラシばらまき耕耘で簡単モグラ除け

高橋真央

吉賀町の宮本正子さんは、退職してから自家用に野菜づくりを始めて10年ほど。以前はモグラがいつぱい畑に入ってきて困っていました。

友達に「モグラにはトウガラシが効くよ」と聞いてから、収穫したトウガラシを乾燥させて丸ごとばらまき、管理機で碎きながら土に混ぜるという方法を試してみました。量は1畳にだいたい50本。野菜を植える前の耕すタイミングでトウガラシを撒くだけなので、手間もかからずモグラもばつちり来なくなっただけです。

トウガラシは土にすき込むと勝手に発芽して育つので、邪魔になってきたら畑の隅に移植します。すると翌年分がたくさん採れて、買わなくて済みます。

もっと細かく砕いたほうが効果があるかもしれないと、次はあらかじめ半分につけてから管理機で碎く予定です。



鶏糞を使いこなして肥料代10分の1！

大池俊二

「鶏糞は堆肥ではなく肥料。それだけ気を付けてやりすぎなければこんないい資材はない」と惚れ込んでいるのは、銚田市のコマツナ農家の根崎将さん。前につくっていたメロンやイチゴに比べて薬物野菜は売り値が安いので、何とか経費を削減できないかと、4年ほど前に化成肥料をやめて全量発酵鶏糞に替えました。

コストは以前の化成肥料が1袋2000円だったのに対し、鶏糞は200円。米ヌカも入った発酵鶏糞ペレットなので散布もラクです。さらに、夏場に補給していたミネラルも鶏糞で補えるオマケまでついて、いいことづくめです。

コマツナは1年に4作。毎回作付け前に20mのウネに1袋入れています。鶏糞のおかげでコマツナの「伸びがいい」と大満足の根崎さんでした。



{あっちの話



長野
から

まるでマカロン！ 新食感干しリンゴ

三浦大弥

飯田市の野口さつゑさんから、リンゴチップスともまた違う、新食感の干しリンゴのレシピを教わりました。

使うのは味がボケたり、一部が傷んでしまったりリンゴ。8〜10個分で一気に作ります。

直径30cmくらいのボウルに皮を剥いて12等分したリンゴを入れ、水をひたひたにします。そこに、塩一つまみと、五倍酢を水の4分の1ほど加えて30分。ザルに上げて水気が切れてきたら、干し野菜用のネットで天日干し。晴天時なら1週間から10日干して完成です。角が硬くなり、少し干しすぎたかなと思うくらいがちょうどいいそうです。

ポイントは五倍酢。酸化防止に使いますが、酸っぱさも残らずべたべたしないので、野口さんは様々な加工品に重宝しています。できた干

しリンゴは、リンゴチップスに似ていますが、より「さくつ、ふわつ」とした軽い噛み応えでまるでマカロン。優しい甘さの上等な砂糖菓子のようにでした。

